T2R2 東京科学大学 リサーチリポジトリ
Science Tokyo Research Repository

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	森林資源管理における社会的合意形成プロセスの構築に関する研究 ～「国頭村森林地域ゾーニング計画」策定事業の実践と考察～
Title(English)	
著者(和文)	谷口恭子
Author(English)	Yasuko Taniguchi
出典(和文)	学位:博士（学術）, 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第10022号, 授与年月日:2015年11月30日, 学位の種別:課程博士, 審査員:桑子　敏雄,坂野　達郎,猪原　健弘,後藤　美香,谷口　尚子
Citation(English)	Degree:, Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第10022号, Conferred date:2015/11/30, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

Powered by T2R2 (Science Tokyo Research Repository)

別　　紙　１（論文博士）

論文審査の要旨及び審査員　　（2000字程度）

報告番号	乙 第　　号	学位申請者	谷口　恭子	
論文審査員	氏　　名	職　　名	氏　　名	職　　名
	主査　　桑子　敏雄	教授	谷口　尚子	准教授
	坂野　達郎	教授		
	猪原　健弘	教授		
	後藤　美香	教授		

本論文は、「森林資源管理における社会的合意形成プロセスの構築に関する研究～「国頭村森林地域ゾーニング計画」策定事業の実践と考察～」と題し、「森林管理における保全と利活用の対立克服のための合意形成プロセスをどのように構築するか」という問いを立て、その問いに対する解を明らかにしている。

森林管理では、保全と利活用の二項対立をどう克服するか、その道筋をどのようにみいだすかということが重要な課題である。本研究は、この課題について、わが国で代表的な亜熱帯林である沖縄県やんばる国頭の森の「国頭村森林地域ゾーニング計画」（2011　国頭村：以下、「本計画」とする。）の策定事業を題材に、社会合意形成及び森林教育の観点から考察している。

生物多様性豊かな亜熱帯林の保全と利活用をめぐる多様なステークホルダー間のインタレストが潜在的に対立するなか、紛争に陥らせずに合意形成を図るには、合意形成プロジェクト・マネジメントをどのように行うかが重要であるという点を踏まえると、森林資源管理に関する合意形成というテーマに関して、基礎自治体による森林計画策定の実践に関する研究事例は貴重である。v

本研究は、合意形成プロセスを含む事業による理論的・経験的な情報を分析した上で構築した「社会的合意形成プロセスにおける設計・運営・進行の具体的手法」を用いて行った事業を研究の対象としており、困難な合意形成の現場において、合意形成プロセスのための仮説を立て、当事者として問題解決の試みとして行った実践的・社会実験的研究と位置づけることができる。

本論文は序章、第１章から第９章、及び終章から構成している。

序章では、本研究のテーマ、先行研究と方法論、研究の成果と本論文の構成を示している。

第１章「森林管理の歴史」では、コモンズとしての森林について考察した上で、やんばるの森の管理の歴史的背景について、琉球王朝の蔡温による林政まで遡って論じるとともに、所有権・利用権の変遷を論じている。

第２章「国頭村の森林管理」では、やんばるの森の象徴でもある資源の価値について、自然資源と文化資源について論じている。

第３章「やんばるの森の保全と利活用」では、保全と利活用の対立構造を、「守る対象」の変遷の視点から論じている。

第４章「森林資源管理に関する合意形成」では、森林資源管理に関する法令に基づく境界の設定における合意形成について概説し、「森林地域に張り巡らされている様々な境界による混乱」を明らかにしている。

第５章「策定事業およびプロジェクト・マネジメントの概要」では、本研究の実践フィールドである国頭村が実施した本計画策定事業及び合意形成プロジェクト・マネジメントの概要を論じている。

第６章「「国頭村森林ゾーニング計画」の内容」では、合意形成マネジメントの成果として合意形成に至った本計画の内容について、基礎情報の集積・統合からゾーニング図の策定・合意形成までの経緯を論じている。

第７章「「ゆるやかなゾーニング」と「自然再生」」

では、本計画における終盤の厳しい合意形成の構築に大きく貢献した、「ゆるやかなゾーニング」の概念について論じている。

第８章「「国頭村森林地域ゾーニング計画」の意義」では、本計画の意義について、環境教育的視点及び地域政策の視点から論じている。

第９章「やんばる国頭村の持続可能な森林資源管理の課題」では、国頭村の持続可能な森林資源管理における課題について、世界自然遺産登録、新しい森林業の創出、地域を主体とした森林管理等に関して論じている。

終章では、本研究の成果と今後の課題についてまとめている。

以上を要するに、本研究は、亜熱帯林の持続的管理における対立・紛争の解決のためには、問題の本質に沿い、かつ地域の実情に即しつつ、社会的合意形成プロセスのデザインとマネジメントを実践することで、対立の深い課題を合意に導くことができることを社会実験的に示している。とくに本研究の学術上の貢献は、自然環境の生態学的資料と行政機関等の行政的資料などをもとに、各種境界の複雑かつ多様な情報をＧＩＳソフトの活用によって重ね合わせ、統合することで、戦略的概念としての「ゆるやかなゾーニング」による合意形成を実現することが可能であるということを示したことである。本論文は、多様なステークホルダーによる保全と利活用の対立を克服するための合意形成プロセスに関する理論と方法を示したことにより、学術上貢献するところが大きい。よって、博士（学術）の学位論文として十分価値あるものと認められる。